

平成25年 12月 定例会(第4回) 会議録(抜粋)

◆正田富美恵議員 皆様、おはようございます。

議長のお許しをいただきましたので、通告のとおり質問をさせていただきます。

まず、1点目の安心安全都市をめざして、災害対応について質問をさせていただきます。

八千代市でも甚大な被害を受けました台風26号については、きのうまでさまざま質問がございましたが、私からは市内8カ所で起こったがけ崩れの対応について質問をさせていただきます。

今回の台風26号のがけ崩れの対応についてお聞かせください。

◎矢口健二安全環境部長 お答えいたします。

今回の台風26号では、10月15日から16日にかけて総雨量306ミリを記録しました。これに伴い地盤が緩み、市内8カ所でがけ崩れが発生いたしました。

発生場所といたしましては、桑納1カ所、桑橋2カ所、上高野1カ所、吉橋1カ所、萱田2カ所、萱田町1カ所の合計8カ所となっております。

このうち、担当部である都市整備部によりブルーシート等による応急対応が4カ所、樹木の伐採による応急対応が1カ所となっております。残りの3カ所につきましては、県及び地権者により対応しております。

また、このうち桑橋と桑納の2カ所につきましては、台風26号通過後、がけ崩れの影響で土砂の一部が家屋に影響を与えたことから、避難勧告を発令し避難を呼びかけ、ふれあいプラザや睦公民館で一時的に身の安全を図ったところでございます。

◆正田富美恵議員 市内にはこのような箇所がたくさんあります。今後、土砂災害やがけ崩れが心配される危険な場所について大きな被害が出ないために、市はどのように取り組んでいくのでしょうか、お聞かせください。

◎矢口健二安全環境部長 基本的のがけ地は個人の財産でありますので、土地所有者が点検やのり面の保護等の対策を行っていただく必要があると考えております。

◆正田富美恵議員 個人の財産ではありますが、それでは今回のがけ崩れの被害に遭われた方の対応はどのようにされたのでしょうか、お聞かせください。

◎矢口健二安全環境部長 個人で対応していただくのが原則ですが、桑橋につきましては立ち入りも危険な状態であったことから、新たな住宅の確保として公団住宅を御案内いたしました。

また、被災された宅地については、今後の土地利用について被災者からの相談を引き続き受けてまいりたいと考えております。

◆正田富美恵議員 きんのうまでの議会で、市長は災害対策にどう取り組んでいかれるかという質問に対して、水害に取り組んでいくというお話でしたけれども、土砂災害やがけ崩れの対策もしっかりと取り組んでいただきたいと思います。

今回、がけ崩れの8カ所、先ほど部長よりお話がありましたけれども、2軒は自宅に帰ることができなくなりました。また、もう1軒は、のり面を自分で保護すると1億円かかると見積もりをいただいたそうです。生産緑地のために動くこともできずに困っております。

このような方たちが再出発できるように、市は早急に取り組むべきだと思います。このたび災害に遭われたすべての皆様に対して、きのう緑川議員からも御提案がありましたけれども、我孫子市は住宅修繕に係る補助を床上浸水は30万円、床下浸水は20万円、そして被災住宅にかわる

住宅の賃借に係る補助として家賃補助を行っております。それに引きかえ八千代市は、床上浸水が2万5,000円ということです。このような額ですと再出発というのは難しいのではないかと思います。この八千代市の災害見舞金制度を見直して、被災者に対する支援を行うべきだと思いますが、市長、いかがでしょうか、お答えください。

◎秋葉就一市長 正田富美恵議員の一般質問にお答えを申し上げます。

がけ崩れ住宅への対応につきましては、先ほど安全環境部長より答弁がありましたように、公団住宅の借り上げまでの間は自治体として責任を持って取り組まさせていただきました。また、ブルーシートなどをかけたりとか、一定の水路を工事して緊急工事を対応したり等々もさせていただきました。

我孫子市が発表されたものががけ崩れ対策のものかどうかは、いま一つ精査をしてから判断したいと思っておりますけれども、住宅再建にかかわるまずは利子補給については、現在制度化に向けて準備をしているところでございます。

その他の取り組みにつきましては、昨日まで答弁申し上げてきましたように、1号幹線のサイレンが鳴らなかったことと被害との因果関係の検証を進める中で検討してまいりたいというところでございます。

◆正田富美恵議員 被災対策というのはいろいろ想定することが大事だと思います。八千代市の場合、土砂災害とかまたがけ崩れ、これから多く発生すると思われます。そのような方たちに対して、確かに我孫子市は水害対策に限っておりますけれども、八千代市の場合はどういう方たちにも使えるような、そんな制度の改革を、そして創設をお願いしたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

そして、先ほど、がけ崩れが起こった2世帯の方たちが公団住宅に住まわれるまで自治体で面倒を見たとおっしゃいましたけれども、ふれあいプラザから他市のホテルに移動されております。そして、1軒はいまだに先が見えておりません。このような状態でございます。

そして、避難所について次にお伺いいたしますけれども、本市の防災計画には、避難所開設に当たって避難生活の長期化等を考慮する、必要に応じて民間賃貸住宅、ホテル等を避難所として借り上げるなど、多様な避難所の確保に努めるとあります。しかし、先ほども申し上げましたが、今回がけ崩れで被災された方が新しい住宅を確保するために長期間避難できる場所がありませんでした。災害や火災で被災した場合に、長期間避難する場合の避難場所の確保は必要だと思いますが、それについてはいかがでしょうか。

◎矢口健二安全環境部長 お答えいたします。

長期的な避難所の対応とのことですが、以前は建てかえ前の消防本部裏に緊急一時宿泊施設というものを設置しており、火災で家屋を焼失された方など、一時的に宿泊できる施設がございました。

しかしながら、平成17年に老朽化や消防本部建てかえ等のため、財政状況を考慮した結果、当該施設の再建を断念し、設置管理条例を廃止したという経緯がございます。

このような施設をまた市が独自に設置するということは困難でございますので、今後につきましては、地域防災計画で定める住宅対策の担当である都市整備部と連携し、公営住宅、企業保養

所、寮、社宅、空き家の一時使用、民間賃貸住宅の借り上げ等、被災者に対し緊急に仮住居が提供できるよう体制の充実に努めてまいりたいと考えております。

◆**正田富美恵議員** 市長は、このように火災とか長期間で避難する場所がないというのは御存じでしたでしょうか。今お話があったように、UR住宅とか、素早く手を打って、市営住宅とかそういうところに配置をされるようお願いしたいと思います。

それでは、災害時の協力団体との連携はどのようになっておりますでしょうか、お聞かせください。

◎**矢口健二安全環境部長** お答えいたします。

現在、本市においてはさまざまな団体と34の災害時協力協定を締結しております。簡単に申し上げますと、行政間の協定3件、医療関係4件、水道関係3件、物資関係11件、輸送関係4件、廃棄物関係1件、報道関係1件、葬祭関係3件、施設関係2件、その他2件となっております。

台風26号による災害発生後におきましては、八千代市建設連合会にかけ崩れにおける応急復旧業務を、八千代清掃事業協同組合に災害ごみの収集運搬業務を協力協定に基づき依頼いたしました。今後につきましても、引き続き関係団体との連携強化を図ってまいりたいと考えております。

また、課題となっております特別養護老人ホームやデイサービスセンターなどの社会福祉施設等に対しましても、協定締結に向け努力してまいりたいと考えております。

◆**正田富美恵議員** 今御答弁がありました医療関係、建設関係、廃棄物関係と協定を結んでいるそうですけれども、最後におっしゃった特別養護老人ホームとかまた福祉避難所となるさまざまな団体とはまだ協定を結んでいないということなので、ぜひ早急にそこは協定を結んでいただきたいと思っております。きめ細かく対応することが避難所については重要だと思っておりますので、福祉の面から、市内の民間施設など早急に協定を結んで確保していただきたいと思っております。

次に、女性の視点からの防災対策について伺います。

千葉県は、自治体の防災会議において女性の委員の状況を調べ、発表されました。その結果、八千代市は防災会議に女性委員がいないということで報道をされました。防災会議の女性委員登用については議会で要望してまいりましたので、私は非常に残念でなりません。市長の選挙公約にも、男女共同参画の推進が掲げてありますが、この現状に市長はどのような見解をお持ちでしょうか、お聞かせください。

◎**秋葉就一市長** 御指摘のとおり、本市の防災会議には1号委員から8号委員まで現在31名の委員がいらっしゃいますけれども、現在の防災会議委員に女性委員がいないということは私も承知をしておりました。

しかしながら、審議会等は途中で委員等の辞任がない限り、任期満了が来ない限り、委員を変更することはできないという現状の中、現状に至っております。

私のマニフェストにも男女共同参画の推進を確かに掲げておりますので、女性の視点からさまざまな意見を八千代市地域防災計画等、各種の計画に取り入れることが望ましいと考えております。したがって、今後、防災会議委員の構成区分を見直し、女性の意見を取り入れられるよう女性委員の登用に取り組んでまいりたいと考えております。

また、防災会議以外の場を通じて女性の御意見を吸い上げ、八千代市地域防災計画に女性の御意見が反映されるよう取り組んでいきたいと考えております。

◆**正田富美恵議員** 昨年、国の男女共同参画会議は、防災復興における男女共同参画の推進について防災会議に対する女性の参画を進めております。それを受けて多くの自治体では、男女共同参画の視点から災害時に当たる女性の対応が推進をされ、避難所運営訓練に男女共同参画推進審議委員の意見を取り入れているそうです。

八千代市としてこの男女共同参画の面から、この防災に対して意見を取り入れておりますでしょうか、お聞かせください。

◎**伊藤一男生涯学習部長** お答えいたします。

本市における男性や女性が抱える問題に関する施策の総合的かつ効果的な推進を図るため、八千代市男女共同参画プラン懇話会を設置しており、年1回の会議を開催しております。

現状では、委員の皆様から災害対応に関する御意見を伺い、避難所開設運営対策などに反映させるということはありません。

◆**正田富美恵議員** それでは、行っていらっしゃるということなので、今後その男女共同参画プラン懇話会委員の意見を八千代市の防災に反映させることはできますでしょうか、お聞かせください。

◎**秋葉就一市長** 本年5月に、内閣府男女共同参画局より男女共同参画の視点からの防災・復興の取組指針が公表されたことを受けまして、男女共同参画の視点からの災害対応について関係者が理解しておくことが極めて重要であると考えております。

来年2月に予定しております八千代市男女共同参画プラン懇話会において、男女共同参画の視点からの災害対応につきまして委員の皆様からの御意見をいただき、関係部局と連携を図ってまいりたいと考えております。

◆**正田富美恵議員** 男女共同参画推進からも、女性の視点からの防災対策はとても重要です。しっかりと取り組んでいただきたいと思えます。

ちなみに、県内で女性比率が2番目に高い山武市は、市長の判断で任命できる枠があるので活用したそうです。市長、先ほどは間に合わないということですが、その辺ぜひお願いいたします。

次に、防犯体制の充実として、防犯カメラの設置についてお聞きいたします。

これについては3月議会でも取り上げさせていただきました。その検討結果について、防犯カメラの進捗状況についてお聞かせください。

◎**矢口健二安全環境部長** お答えいたします。

防犯カメラについてはその有用性が広く認識されておりますことから、今後、市といたしましても、駅周辺のひったくり等の犯罪が多く発生している箇所について、県の防犯カメラの設置に対する補助制度を活用いたしまして、計画的に防犯カメラの整備を行うことについて検討をしているところでございます。

◆**正田富美恵議員** 最近、多くの事件・事故に対して、防犯カメラで事件が解決した事例を多く聞きます。市民の安心安全のための防犯カメラの設置を、ぜひ今度の予算に入れていただきたいとお願いいたします。

次に、健康福祉都市をめざして、障害者対策についてお伺いいたします。

きのうの参議院本会議にて全会一致で可決をされました障害者権利条約、これは障害者に対する差別をなくし社会参加を促すものです。今後はこのようなことが実践をされて、しっかりと取り組

まれることを願って質問をさせていただきます。

まず、八千代市第3次障害者計画の重点施策の中から2点、今回質問をさせていただきます。

発達障害のある子供は、早期から発達段階に応じた一環した支援を行っていくことが重要であり、早期から総合的な支援システムを構築することが大事なことです。しかし、早期であればあるほど診断は不確実で、保護者にとっても障害を受け入れることが困難な場合があります。その障害を早期に発見し早期に対応するには、母子保健や医療、福祉の連携が整備されていなければいけないと思います。特に発達障害のある子供の早期発見、早期支援においては、子供の支援とともに保護者の支援が重要です。子供が発達段階に応じた適切な支援を受けることができ、保護者の思いや願いに寄り添い、安心して子育てができるようなシステムづくりが重要だと思います。

八千代市第3次障害者計画重点施策の1点目に、予防、早期発見、早期対応について掲げてありますが、これは大変重要なことだと思っております。本市での保健・医療・福祉の連携の状況についてお聞かせください。

◎皆見隆明健康福祉部長 お答えします。

子ども部で実施しております1歳6カ月児及び3歳児の幼児健康診査において、医療・保健の分野で障害の早期発見に努めており、発達に関しての支援が必要と考えられる児童につきましてはことばと発達の相談室へつながることとなっております。

ことばと発達の相談室では、言葉や発達についての相談・指導・助言を行い、さらに療育が必要な場合には児童発達支援センターへの通所手続などを行うため障害者支援課のケースワーカーへつながることとなっております。このような形でことばと発達の相談室を窓口として、保健・医療・福祉と連携しております。

◆正田富美恵議員 幼児健康診査においてことばと発達の相談室へ紹介された場合、保護者の不安感は強く、じっくりと時間をかけての支援が必要だと思います。また、相談体制は、保健・医療・福祉・教育と、そして大人になってからの就労支援にもつなげていけるような継続的なシステムを拡充していただきたいと思います。

次に、障害者の情報提供について、重点施策の2点目に掲げてありますので、お伺いいたします。

障害のある方にとって、適切かつ迅速な対応が図れる情報はとても重要です。今、災害時に周囲のサポートをスムーズに受けられる連絡先やどんな支援が必要なのかをあらかじめ書き込んだヘルプカードというものが普及をされております。特に聴覚障害、内部障害、知的障害など、一見障害者とわからない方たちにとってこの情報伝達の有効な取り組みであるヘルプカード、大変有効となっておりますが、本市でもこれを導入すべきだと思いますが、それについてのお考えをお聞かせください。

◎皆見隆明健康福祉部長 現在、本市ではヘルプカードの取り組みを行っておりませんが、先般、千葉県から実施状況についての調査があったことから、県及び近隣市の動向を踏まえ、導入について検討してまいりたいと考えております。

◆正田富美恵議員 東京都は、このヘルプカードを統一的に活用ができるようこのカードを広めるために、東京都内だと思っておりますが、区市町村向けにガイドラインを作成しております。これを参考にしてもいいと思います。

八千代市は都内に通学・通勤されている方が大勢いらっしゃいます。すぐに活用できると思います。特に、東葉高速は東京まで乗り入れておりますので、東京都と同じこのヘルプカードでしたら、みんなから見てわかりやすいと思います。このヘルプカード、ぜひ作成していただきたいをお願いいたします。

次に、障害者の相談窓口についてお伺いいたします。

障害のある方は、先ほども、いろんなささまざまな支援が必要で、そして医療から介護、教育、就労と、相談窓口が多岐にわたっています。そのために、相談に来ると、あっちこっちと窓口を回されるということがありますので、ぜひ相談窓口の一本化を図っていただけないでしょうか、それについてはいかがでしょうか。

◎皆見隆明健康福祉部長 福祉の手続きは、個々の状態に合わせて応じていくものが多く、法律の改正も年々あることから、担当課の窓口で専門性について確認していく必要がございます。したがって、一本化については難しい面がございますが、必要な窓口へ職員が同行するなど、あるいは窓口で職員を呼ぶなどの丁寧な対応をしてみたいと考えております。

◆正田富美恵議員 市長の公約の中には、ワンストップサービスというものが掲げてあります。ぜひ障害者にとっても、このワンストップサービスの実現をお願いしたいと思います。

それでは、障害者施設整備についてお伺いいたします。

きのうまでの議会でもるありましたけれども、第1、第2作業所を含む障害福祉サービス事業所の建設に係る進捗状況についてお聞かせください。

◎皆見隆明健康福祉部長 障害福祉サービス事業所の建設に係る進捗状況でございますが、今年度、用地が確定したことから、現在基本設計を実施しているところでございます。

今後のスケジュールにつきましては、来年度に実施設計を実施するなど、八千代市第4次総合計画前期実施計画のスケジュールに基づき施設整備を実施してまいりたいと考えております。

◆正田富美恵議員 来年度に実施設計ということですが、今回20名の方、重度重複障害者を受け入れる生活介護事業を予定されております。そのことについて市内の特別支援学校に通う重症心身障害児を抱える親の会の方から要望をいただいていると思いますが、建物を設計する前に、重度重複障害者が必要とする施設整備をどのように考えておりますでしょうか。

◎皆見隆明健康福祉部長 現在、施設整備を進めている障害福祉サービス事業所では、重度重複障害の方の受け入れも予定をしておりますことから、重度重複障害の方の保護者から施設整備に対する御意見を伺っております。また、重症心身障害の方を主な対象とした生活介護事業所を訪問しまして、利用されている方や施設職員からも貴重な御意見をいただきました。今後、施設整備を実施するに当たり、利用者等からいただいた御意見・御要望を可能な限り反映できるよう努めてまいりたいと考えております。

◆正田富美恵議員 具体的にまだ決まっていないので、重度重複障害者の方たちに配慮した丁寧な施設の整備を望みます。また、先日、海老原議員の、建てかえに当たっては作業所に通う保護者の意見を聞くべきとありました。私も同感でございます。その意見を聞く会議等があった場合には、ぜひこの重症心身障害児を抱える親の会の方たちもその場にいさせてあげて、保護者を含めて開催していただきたいと思います。

それでは、児童発達支援センターの建てかえについての進捗状況はいかがでしょうか。

◎皆見隆明健康福祉部長 児童発達支援センターの建てかえの進捗状況でございますが、今年度に旧千葉県八千代教職員住宅跡地である大和田新田477番地106を建設場所として用地の取得を予定しております。

また、施設整備のスケジュール及び運営方法につきましては、八千代市児童発達支援センター在り方検討委員会からの提言や先進市の事例等を参考に、今後検討してまいりたいと考えております。

◆正田富美恵議員 児童発達支援センターには、ことばと発達の相談室とすくすくルームがあります。ことばと発達の相談室では、発達や言葉の相談、心理士や言語聴覚士が、そしてすくすくルームでは、発達に支援が必要なお子さんを対象に、保育士や専門スタッフが療育をしております。発達におくれのある就学前のお子さんを対象にした生活や遊びを通して、一人一人の状況に応じた療育を実施していただいておりますが、この2つ、萱田と米本という別々の場所にあります。ぜひこの2つの場所を同じ場所に整備をしていただきたいと思います。そして、保育園や幼稚園などの関係機関とのネットワークも、ぜひ新しいところで図れるように要望いたします。

次に、健康づくりの健康増進のための取り組みについて質問をいたします。

市民の生涯を通じた健康づくりのための基本計画である八千代市第2次健康まちづくりプランでは、ライフステージごとに目標を設定し、積極的に健康づくり活動を進めております。その中でも、特に高齢者の健康づくりとして八千代市オリジナルのやちよ元気体操を勧めております。一人では続けにくい運動を、誘い合って行うことで運動が続けられると大変好評だと伺っております。このやちよ元気体操の取り組みについてお聞かせください。

◎皆見隆明健康福祉部長 やちよ元気体操は、高齢者の健康増進を目的として職員が作成したオリジナルの体操でございます。

やちよ元気体操を普及するため、市内の集会所等、住民の身近な場所で、10回を1コースとしたげんき広場を開催し、さらに元気体操を地域で続ける意思のある方に対して、3回で1コースのやちよ元気体操応援隊養成講座を実施しております。養成講座を受講した方がやちよ元気体操応援隊となり、やちよ元気体操を中心とした運動を定期的に行う住民主体のグループの活動等に取り組んでおります。

なお、実績といたしまして、げんき広場は平成24年度は30回開催し、延べ604名の参加、平成25年度は10月末現在で17回開催し、延べ272名が参加してございます。

◆正田富美恵議員 それでは、そのやちよ元気体操応援隊の現在の自主グループ数、そしてその効果はいかがでしょうか。

◎皆見隆明健康福祉部長 平成25年11月15日現在、25グループでございます。目標数は、八千代市第2次健康まちづくりプランにおいて、平成34年度までに35グループと掲げております。

やちよ元気体操の効果といたしましては、市民が応援隊の自主グループに参加することが意識的に体を動かす機会となり、身近な地域の中で仲間づくりができ、楽しみながら運動を続けられることによりロコモティブ症候群の予防や閉じこもり予防につながるなどが挙げられます。

◆正田富美恵議員 八千代市健康まちづくりプランでは、「生きていることの幸せをみんなが実感できるまちをめざして」ということで、子供から高齢者まで全ライフステージに対応した一体的な計画を推進しております。元気体操を啓発するために、子供たちへの啓発活動は大事だと思います。

それでは、小・中学校の児童・生徒へのやちよ元気体操普及のために教育委員会との連携はどのようにしておりますでしょうか。

◎皆見隆明健康福祉部長 小・中学校、児童・生徒等にやちよ元気体操を普及させることで、より多くの市民に周知でき、また世代を超えて楽しく取り組むきっかけにもなると考えております。

現在、一部の小・中学校、児童・生徒には、社会福祉協議会の支会が行う世代間交流事業において元気体操の紹介を行っておりますが、学校単位での普及には至っておりません。

やちよ元気体操は、高齢者の転倒予防のための運動推進を目的に作成したものですので、児童・生徒に体操を実施した際の反応等を踏まえ、今後、小・中学生から高齢者までの方々が一緒に楽しく取り組める新たな体操の作成なども含めて考えるとともに、教育委員会との連携等につきましても、八千代市第2次健康まちづくりプランを推進していく中で進めてまいりたいと考えております。

◆正田富美恵議員 市民がスポーツに親しむ環境づくりは、今後ますます必要になってくると思われます。ぜひやちよ元気体操をもっと普及させて、新川にできます総合グラウンドで全市民対象にやちよ元気体操大会でも開催して、大いに健康づくりに取り組んでいただきたいと思います。

国は、社会保障制度改革に向けて、高齢化に伴う社会保障関係費の抑制として予防に力を入れていく方向を示しております。先ほど言いました早期発見、早期治療、何よりも重要な予防対策だと思っております。その一番の取り組みは健診だと思っております。

本市の特定健康診査の24年度の実診率はいかがでしょうか。

◎皆見隆明健康福祉部長 平成24年度の実診健康診査の実診率は25.7%でございます。

◆正田富美恵議員 第2次健康まちづくりプランを見ると、特定健康診査の実診率はやや下降ぎみになっております。特定保健指導の実施率も、平成21年度に比べ平成23年度は9.5ポイントも下降しております。

目標としては、特定健康診査などを定期的に受けている人の割合を平成34年度までに70%と掲げてありますが、この目標達成のための取り組みについてお聞かせください。

◎皆見隆明健康福祉部長 実診率向上に向けた取り組みといたしまして、受診券の個別発送と広報やちよ、市ホームページへの掲載、医療機関でのポスター掲示などの啓発に加え、どーんと祭、リレー・フォー・ライフ、がん予防展にブースを出展し、直接、市民の方へ健診の周知に努めました。また、国保年金課が保険証を送付する際に、健診についての受診勧奨リーフレットを同封しております。その他、千葉県国保連合会の協力のもと、昨年度未受診の方へ電話による受診勧奨を行いました。さらに、今年度は従来の取り組みに加え、過去2年間未受診で今年9月末まで受診されていない方2万2,679名に受診勧奨はがきを送付いたしました。

◆正田富美恵議員 以前、私は、実診率を上げるために地域に出向いての健診、休日に健診ができるように提案をいたしました。健診率を上げるための今後の取り組みについてはどのように考えておりますでしょうか。

◎皆見隆明健康福祉部長 現在は、医療機関で受診する個別健診のみ実施しておりますが、新たに実診率の低い地域へ出向いた集団健診を実施し、さらに土曜日にも実施することで新規受診者を掘り起こし、実診率の向上を図っていきたいと考えております。

また、その他、より多くの方が詳細な検査を受けられるよう、心電図検査の実施基準の緩和、市

民から要望がありますクレアチニン検査の追加につきまして、平成26年度の実施に向け検討しているところでございます。

◆**正田富美恵議員** 生活習慣病の早期発見、早期治療のための定期的な健診を推進することは社会保障費の削減にもつながることになります。ぜひ健診受診率向上へ向けてよろしく願います。

それでは、本市では医療費の抑制のための方策としてジェネリック医薬品の使用促進のための取り組みがなされております。この状況についてお聞かせください。

◎**皆見隆明健康福祉部長** 本年8月に行いましたジェネリック医薬品差額通知は、5月の保険請求情報をもとにいたしまして、ジェネリック医薬品へ変更した場合に少なくとも500円の差が生じる方々1,211名に対してお送りいたしました。

8月時点の本市の数量シェアは42.0%でございましたが、通知を受けた方が9月分に変更している可能性があるため9月の保険請求実績を確認したところ、数量シェアは43.5%で1.5ポイント上昇しており、削減額も約300万円増加いたしました。9月の保険請求情報のうちジェネリック医薬品への変更可能薬剤が仮にすべて変更された場合は、医療費削減額は約3,000万円増加することとなります。

このようにジェネリック医薬品への変更は医療費の抑制に明確な効果をもたらすことから、ジェネリック医薬品の普及と使用促進に努めてまいりたいと考えております。

◆**正田富美恵議員** それでも医療費が増大をしておりますが、この医療費が増大する現状についての認識と取り組みについてお聞かせください。

◎**皆見隆明健康福祉部長** 医療費削減対策としましては、健康寿命を延ばすための生活習慣病等の予防が最も重要であると考えております。

国民健康保険事業では、保険者に義務づけられた特定健診だけでなく、他の疾病に対しても早期発見や早期治療に取り組んでいただくため人間ドックを推奨してまいりました。

現在人間ドックは、特定健診と同時に実施し、特定健診分は人間ドック費用から事前に控除しております。今後は、がん検診の受診券を活用いたしまして、がん検診も同時に実施する方式といたしまして、利用者の自己負担をさらに軽減いたしまして、より利用しやすい制度にしたいと考えております。

このことにより、人間ドックを推奨することががん検診の受診率向上にも寄与することとなりますので、なおこの制度変更は次の国民健康保険運営協議会へ諮問し、次年度から実施してまいりたいと考えております。

◆**正田富美恵議員** 次に、疾病対策についてお伺いいたします。

国の健康目標を定めた健康日本21、この中で重要な柱となっているのが糖尿病対策です。糖尿病の患者は、そうでない人に比べるとがんになるリスクが平均で1.2倍、肝臓がんや膵臓がんは2倍、大腸がんは1.4倍にもなると言います。

日本癌学会は、糖尿病はがん発症率を高めると発表しております。その上、糖尿病が悪化して人工透析を受けると、医療費は1人当たり年間500万円ほどかかるそうです。人工透析は精神的にも負担があります。

糖尿病を防ぐことは、健康増進、医療費抑制両面で大事な取り組みだと思っております。これについて

他の自治体で、国民健康保険加入者の診療報酬明細書、レセプトデータを活用し、市民の糖尿病等重症化予防プログラムを実施・推進されております。データヘルス事業と呼ばれておりますが、これは国民健康保険のレセプトデータをもとに糖尿病などの対象者を抽出して、参加希望者に生活習慣や通院状況などを踏まえた生活改善の予防プランを受けることを実施して成果を上げているそうです。

本市でもこのように国民健康保険の医療費が増大する中、このようなレセプトデータを使って重症化予防に取り組むのは有効だと思っておりますが、これについてはいかがでしょうか、お聞かせください。

◎皆見隆明健康福祉部長 国の平成26年度の新たな取り組みとして、データヘルス事業がマスコミを通じて紹介されました。健康保険組合が保有する健診結果データとレセプトデータをあわせて分析し健康増進のために役立てようとするもので、活用計画の策定を求めていく内容となっております。

この事業の国保版となりますのが通称KDBと呼ばれる国保データベース事業でございます、健診結果とレセプト情報に加え、介護保険の給付情報をあわせて分析対象とするシステムの構築とその活用を図っていく事業でございます。

本年10月からの稼働でございますが、まだまだ試行段階であり、操作方法や今後の提供予定情報の説明を受けている段階で、システムも検証や熟成を進めている状況であるため、健康保険のデータヘルス事業と同様に、次年度において活用方法を各市町村で具体化することが求められております。

御質問にございました糖尿病の予防や悪化防止、健診結果で受診が必要とされた方への受診勧奨など、保健師による保健指導として積極的に行うことや、介護保険のサービス給付の適正化に活用することなどが期待されております。

今後、このKDBシステム活用について国保、保健、介護の分野で協議し、連携した活用方法について工夫してまいりたいと考えております。

◆正田富美恵議員 先ほどはジェネリックで3,000万円の削減ができたとおっしゃってございました。このデータヘルス事業もかなりの保険料の引き下げにかかわってくるような削減になると思っておりますので、ぜひ実施をお願いいたします。

それでは、最後のまちづくりの観光について質問させていただきます。

来年度、26年度策定予定の観光振興計画の策定方針についてお聞かせください。

◎立石梅夫産業活力部長 お答えいたします。

観光振興計画につきましては、第4次総合計画や第3次産業振興ビジョンの観光における基本方針を受け、計画に位置づけられた事業やビジョンに示された事業を具現化するとともに、新規の観光事業を創造してアクションプランを策定いたします。

アクションプランに位置づける内容につきましては、これから素案をつくる段階ですのでまだ決まってはおりませんが、これまで検討してまいりました近隣自治体との連携による新川を生かした屋形船の運航やレンタサイクル事業、グリーンツーリズムの考えを取り入れた農家生活体験、御当地グルメの開発、モデル散策コースを記載した案内看板や案内標識の整備などを盛り込んでまいりたいと考えております。

なお、この計画を策定するに当たりまして、随時事業を実施するとともに、実施した事業を検証し、八千代市にこんなよいところがあった、来てよかったと感じていただけるような観光事業を展開してまいりたいと考えております。

◆**正田富美恵議員** その観光振興計画推進の策定に当たり、意見をいただく八千代市観光振興懇談会が先月開催をされたようですが、第1回八千代市観光振興懇談会ではどのような意見がありましたでしょうか。

◎**立石梅夫産業活力部長** お答えいたします。

第1回八千代市観光振興懇談会を25年11月1日に開催し、八千代市の観光について各委員より御意見をいただきました。

主な意見といたしまして、自然・景観の分野では、都心に近いが新川周辺は夕日がきれいな場所、新川周辺は一番鳥が多く見られ、ヤマトミクリと里山の散策、新川を使って船による遊覧ができたらいなどの意見がございました。文化・歴史の分野では、高津姫と三山の七年祭り、新川と染谷源右衛門の歴史、長福寺と米本城跡。祭りや行事の分野では、新川の桜を使ってのイベント。農業体験の分野では八千代ふるさとステーションややちよ農業交流センターの集客増、八千代の梨の観光化などの意見が出ました。このほか、東葉高速鉄道などの駅前に案内板がない、どこか八千代市を訪ね歩きたいと思ってもわからないといった意見がございました。全体の意見といたしましては、新川周辺地区の意見が多くありました。

以上でございます。

◆**正田富美恵議員** やはりこれからの本市の観光施策では、新川周辺が重要な観光資源となってくると思います。

次の質問の、やちよふれあいの農業の郷整備事業については、先日、他の議員からもございましたので、私のほうからは、八千代ふるさとステーション、農業交流センターの整備の充実と集客のための取り組みについて提案をさせていただきます。

駐車場や芝生を使ってコンサートやイベントを開催して集客ができるようにしていただきたいと思っております。そのためには、市内の各団体や教育委員会等の他の部署としっかりと協議をされて、農業交流センターの施設の充実を図っていただきたいと思っております。

また、今回、レストランのテナントが、橋の決定がおくれたことによって撤退をされた、これは非常に残念なことだと思っております。予定されていたこのテナント、主婦に人気のあるお店でございます。私も船橋にあるこのお店、行ってまいりました。このお店が出店されたら大変評判になったと本当に残念でなりません。失った時間を戻していただきたいと思っております。これからは、新川周辺を起点に観光振興に全力で取り組んでいただきたいと思っております。

それでは、市長にお伺いいたしますけれども、この新川周辺の観光について市長はどのような思いがございましょうか、お聞かせください。

◎**秋葉就一市長** 次に御予定されている質問と一部重複してしまうかもしれませんが、本市の有力な魅力の一つが、新川及びその周辺の環境ということは認識をしております。したがって、この新川周辺及びその周辺の環境が、今後の観光施策の展開の中で1つの軸となるものと認識をしております。

◆**正田富美恵議員** 市長も喜んでいただけているととてもうれしく思います。

先日、私たち会派は豊橋市に行ってまいりました。豊橋市では、豊橋市シティプロモーション推進計画「ええじゃないか豊橋推進計画」と、こういう冊子をつくって取り組んでおります。これを策定して豊橋では、豊橋をもっと有名にしたい、豊橋のよいところを知ってもらいたい、市民に豊橋を誇れるまちにしてもらいたい、そのような思いからこの計画がなされたそうです。

この推進会議は、官民一体となって検討をしているそうなんですけれども、そのメンバーには、学識経験者、商工業関係者、マスコミ関係者、行政関係者、この方たちが委員になって、さまざまいろんな角度から提案をして、そして豊橋カレーうどんや市民の女子学生を集めた地元アイドルグループなどを結成して、シティプロモーションを展開しております。これ、大変に評判がよく、東京などのイベントに、この豊橋のPRに大活躍をしているそうです。

本市でも、このようなシティプロモーション事業を市内の団体と協力しながら行っていくのは、シティプロモーションとしては大変重要なことだと思いますけれども、この事業についてのお考えをお聞かせください。

◎**秋葉就一市長** シティプロモーションとは、地域の魅力を創造し、それを地域の内外へと広めることで、地域イメージをブランド化することで魅力的なブランドに育て、観光客や転入者をふやすことと認識しております。また、これにより、結果的に地域住民のふるさとに対する愛着度を根づかせることができるものと考えております。

本市の大きな特徴の一つとして、都心から30キロ圏内という東京近郊都市でありながら、豊かな自然環境が残されているということが挙げられます。とりわけ、新川及びその周辺の水と緑の空間は四季折々の風情を楽しませてくれるとともに、人々に潤いと安らぎを与える魅力あふれる空間として市民の皆様に親しまれております。

都市化の進展に伴い、この新川及びその周辺の持つ役割は増すものと考えており、水と緑の貴重な空間を生かした市域全体のコミュニティエリアとするため、現在、子育て世代の利用が見込まれます中央図書館、総合グラウンドなどの建設を進めております。

本市ではこれまで、市のプラスイメージを高めていくことを目的として、シンボルマークの制定やバラを市の花として指定するなどビジュアルアイデンティティによる八千代市ブランドの訴求を進めてまいりました。

その一環として、昨年度イメージキャラクター「やっち」を誕生させ、さらなる市のイメージアップ向上を図っているところでございますが、本市のシンボリック存在であります新川及びその周辺の水と緑の空間につきましても、自然豊かな魅力ある八千代市をPRしていく上での重要なファクターでございまして、人と人、人と自然の触れ合いの場として今後も活用を図ってまいりたいと考えております。

◆**正田富美恵議員** 市長は、テレビ取材を受ける、そして放映されることが大変多いので、今度は新川周辺の図書館、交流センター、総合グラウンドをどんどんアピールして、シティセールスに取り組んでいただきたいと思います。

最後に、以前、秋葉市長は、市議会議員時代、前市長・執行部に対してほとんど反対の立場で批判をされており、私もそれをずっと見てまいりました。今はその執行部とともに、市のすべてのことに決定をしなければならない立場です。パートナーとなる副市長不在の中、リーダーとして一人

決断するのは大変だと思います。しかし、少なくとも今定例会での台風26号に対する答弁を聞いておきますと、市長の危機管理のなさに不安を感じたのは私だけではないと思います。

今後は、市民に不安を感じさせる政治ではなく、20万市民の生命と財産を守り、市長の、ずっと住み続けたい八千代を目指して、確かな施策の遂行をもって市民に希望を感じてもらえるような市政運営を望んで、私の一般質問を終わりにさせていただきます。ありがとうございました。